

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23 (9)	入居時に伺ったご本人様、ご家族様の意向が主となり、より深いご本様、ご家族様の意向確認を行い、計画書に反映させていく必要がある。	ご本人様、ご家族様の望む、より満足度の高い暮らしの実現のため、より具体的な希望、意向の確認を行うことができる。	管理者、計画作成担当、居室担当が協力し、面会来所の際や、計画書の見直し以前の電話連絡にて、ご本人様、ご家族様に希望、意向の確認を行う機会を持つ。	12ヶ月
2	26 (10)	個別サービス計画書のサービス内容が実施されていないことがある。より満足度を高めるためにも、より具体的な希望、意向に沿った個別サービス計画書が必要である。	より希望、意向に沿った計画を立案、ご利用者様の毎日の生活プログラムに個別サービス内容を組み込み、確実に実施、モニタリングしていく。	管理者、計画作成担当が協力し、個別計画内容一覧とサービス実施チェック表を作成し、確実に実施、モニタリングを行っていく。	12ヶ月
3	53 (20)	寛ぎの空間が、居室とリビングが主となっている。ご利用者様が寛ぐことのできる空間を作る必要がある。	ご利用者様が安心して落ち着いて寛ぐことのできる、空間づくりを行う。	リビングコーナーにソファやテーブル、椅子、本棚等を設置、パーテーション、植物などで目隠しをし、寛ぐことのできる空間を作る。	3ヶ月
4	2 (2)	平成29年度は行事やボランティア来所等の予定を地域にお知らせし、近隣の方々に参加して頂いたが、交流サロンの有効活用には至らなかった。	交流サロンを使用した地域の方々に参加して頂くことのできる行事を最低2回/年実施し、地域の福祉拠点を目指す。	地域包括支援センターと協力、連携を図り地域の方々を招いた行事を行う。	12ヶ月
5	13 (7)	平成29年度は職員が目指す資格取得のサポートや、希望する研修に参加する十分な機会を得ることができなかった。	ほぼすべての職員が生き活きを働くことのできる職場環境を作り、スキルアップや底上げを行う。	・アンケートを実施、希望する研修の研修計画を立て、講師を招き内部研修を行う。 ・上期、下期の人事考課の面談の際、職員が生き活きと働くことができているかモニタリングを行う。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。